

令和 5 年度第 1 回 恵那市男女共同参画プラン推進委員会 会議録

日時：令和 5 年 9 月 1 日（金） 午後 1 時 30 分から

場所：恵那市役所 西庁舎 3 階 災害対策室 A B

-
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 自己紹介
 4. 議事
 - (1) 男女共同参画プランの推進状況について
 - ・ 目標指標の達成状況 資料③
 - ・ 各課における昨年度の取り組みについて 資料④
 - (2) 今年度のプラン推進に向けた取り組みについて（意見交換） 資料⑤⑥⑦
 5. その他
 6. 閉会

■委員

	団体名	氏名
1	「男女（ひと）のわ」ネットワーク	坪井 弥栄子
2	「男女（ひと）のわ」ネットワーク	亀井 邦子
3	まちづくり団体（hugma 編集部）	太田 礼子（欠席）
4	恵那市教育委員会	樋田 千史
5	恵那市恵南商工会推薦企業	後藤 大輔（欠席）
6	中津川人権擁護委員協議会 恵那市地区部会	市川 雅子
7	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征
8	恵那市 P T A 連合会	遠山 尚紀（欠席）
9	恵那市国際交流協会	成瀬 あい

（事務局） 企画課 柘植、和田、杉山、平野

1. 開会

2. 会長あいさつ

■会 長 男女共同参画プランの状況について、事前配布した資料に目を通していただいていると思う。毎年対象者が変わっているので、多くの項目で令和3年度より4年度の方が下がっており、残念だ。抽出なので毎年回答する対象者が替わる。対象者が変わっても年度を追うたびに目標値に近づくことを期待する。

3. 自己紹介 (名簿順に自己紹介)

■事務局 (進行) 議事に入る。会長に進行をお願いする。

4. 議事

(1) 男女共同参画プランの推進状況について

・目標指標の達成状況 資料③

・各課における昨年度の取り組みについて 資料④

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委 員 資料③、令和4年度の目標指標の一番上、達成率は令和7年度の目標値に対するパーセントということか。

■事務局 そうだ。

■委 員 令和7年度に向けて80%、50%、50%…という目標値を作って、その値に対する達成率が、令和4年度は項目の9だと30.23%と。令和7年度の目標値はどこから算出したのか。達成率を上げようと思ったら目標値を下げないといけない。目標値を設定した根拠を教えてください。

■事務局 プランの43ページにあるように、目標値は計画時に立てたものなので、計画期間内にここを目指すというのはプランの策定のときの数値だ。

■委 員 50%がいいだろう、ということで出てきた数字だと。

■事務局 半分にはなるようにという感覚的なところかなと思う。

■委 員 そうすると、そこに向けて達成率を持っていくということか。

■事務局 そうだ。

■委 員 実際はものすごく低いけど、どうするのか。目標値を下げるのか。

■事務局 それは難しい。

■会 長 目標値は下げられない。それに近づけるように努力するということ。

■委 員 分かった。

■委 員 「学校教育の場における男女の優遇差について」、ほかに比べれば優遇差は少ないが、逆に学校教育の場においての男女の差は何なのかと思う。むしろ、中学でも、委員長や生徒会長に女子が能力を発揮できる場が広がっている。それなのに、まだ 40% 余なのかと不思議だ。どういう場合にそうじゃないのか。

■委 員 意識づくりのところでは、パーセンテージがなかなか伸びておらず、下がってきている。調査対象者が入れ替わり捉え方の違いもあると思うが、この傾向についてどのような分析をしているか。

もう一つ、基本目標 2 で防災リーダー養成の女性の参加者で、女性が増えているが、防災士の育成のことだと思うが、育成した防災リーダーを、女性だけじゃないが、どのように活用するかが課題だと思う。活動の場がないと難しいので。

■委 員 基本目標 3 のこども園の未満児受入数について。目標値が 312 人で、少子化を踏まえると預けたい人がトータルで減っている。この目標値を直すのは難しいと言われたが、あまり意味のない数字だ。それより、待機児童が何人いるかの方が大事だ。今 287 人で 3 分の 1 が未満児保育に入れているということで、預けたい人が全員預けられているならいいが。

子どもが小学生と中学生といるが、男女差がそんなにあるとは思えない。名簿も男女混合になっている。これは年齢層もさまざまな調査だと思うが、私の頃と比べたら全然そういうことは思わない。

■委 員 項目 5 の学校教育の場の男女差について、校長も女性が多い。長島町では西中学校の校長も長島小学校の校長も女性。学校で管理職に女性がどんどん出ていることは喜ばしいと思う。この数字はよく分からない。

■委 員 P T A 会長が女性のところもある。学校現場では様々な委員会で女性の方が役員になっていたり、活躍している。校長は恵那市は女性が結構多い。教頭も多い。アンケートは当てになるようではない。どういう人が回答したのかも大きな問題。

■会 長 子どもがいるかないかによっても違う。

■委 員 真に受けない方がいいかもしれない。参考として見るぐらいで。分析したら難しい。2500 人を対象にしたというが、アンケートは 2700 人以上採ると正常値になる。もう少し増やしてもいいかもしれない。

■会 長 やはり項目 5 の学校教育の場は、年代によってアンケートを採っているが、子どもがいる人や、40 代ぐらいまでの人の回答を精査しないと、60、70 代に聞いても、外から見ていただけなので分かっていない。私は西中学校の学校運営委員を 6 年やったが、女性の委員も多いし、学校の様子を地区に教えてくれている中で男女の差

はほとんどない。かえって女性の方がいきいきしている。運動会でも、女性も男性も一生懸命やって、応援団も女性がいっぱい出ている。この数字は年齢的なものがあるのか。

項目 7 の社会通念、しきたりについて。17、4%が平等じゃないと回答している。これは女性の意識を変えていかないといけない。「私よりもお父さんが」とか「私なんか」とか。夫の方は奥さんが出ても何ともないのに、女性の方が面倒くさいことはやりたくないという場合が多い。

項目 4 の地域活動における男女の優遇差について。34.3%。この頃いろいろなところで女性が表に出てくるようになってきているが、まだまだ自治会長などの役員は男性が多い。一方で、地域に聞き取りをしていくと、本当の自治会長の仕事は女性がやっており、男性は仕事が忙しいため会議の時でているという話も聞く。

■委員 自治会長も、女性は遠慮する人もある。だけど、僕らの自治会では女性が自治会長をやった人もあった。会合でも僕らのところは女性が多い。優遇差というのはどういう言葉なのか。差別があるということなのか。

■事務局 先ほどの市民意識調査について、回答された人が 1300 人弱。そのうち 70 代が 24.4%、60 代が 22.2%。50%近くが 60 歳以上。多分感覚的に答えているところもあると思う。回答率も高い。60 代以上の回答率が高くなるほどこの数値も昔のイメージになると思う。

■委員 そういうのもアンケートにするといい。40 代以下の人はそう考えてないとか。

■事務局 分析は多分できると思う。年齢層でデータを出すといい。自由意見の中で、この質問自体がナンセンスというのもあった。次の計画づくりの際には、設問の仕方も時代に合わせる必要があると思うが、ここ 10 年で大きく感覚が変わってきているところもある。

30 歳未満は 6.5%の回答率。30 歳以下がどう捉えているかを分析すると興味深い結果が出るかも。

■委員 このアンケートも年代別に人数がそろうようになるといい。

■事務局 送るときはそろえているが、回答が返ってこない。

最近 QR コードを読んで回答するようなこともやっているが、若年層の回答率が低い。

■委員 選挙の投票率と同じだ。年齢が高くなるほど真面目というか、行かないといけないという気持ちが強い。若い人はもういいかということになる。意識の問題だと思う。このアンケートはそういうこともある。60 代以上が 50%以上なら納得できる。

- 会 長 市役所から手紙が来たら書かないといけないと高齢者は思う。
- 委 員 このアンケートを始めて 10 年経つのか。平成 26 年から？
- 事務局 もっと前。一次のときもやっていると思う。今は二次。令和 7 年まで。
- 委 員 世間の人はこのデータを見てないと思う。男女共同参画プランというものがあることを知らせないといけない。ホームページに載るのか。もっと宣伝してもいい。意識づくりは大事だし、環境も大分変わってきていると思うが、意識は個人差があり過ぎる。優劣付け難い。情報提供することは大事だ。
- 会 長 安心して生活できる体制づくりの子どもの保育園の未満児について。これも、今 200 人生まれるかどうかだ。少し前は、総合計画では 450 人でやっていたのを組み替えた。こういうところも見直ししていかないといけない。岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業登録数も、岐阜県のは出ているが、恵那市のを出すといい。
- 事務局 恵那市の、県に登録している企業の数だ。
- 会 長 恵那市で 80 社余あると。
- 事務局 そうだ。エクセレントはまだ 2 社。耕グループとトマト。
- 会 長 防災士が 15 人でだんだん出てきているが、この方々を防災訓練のときにどう使うか、普通のときにどう使うか。認知症サポーター養成講座を毎年やっており、今年は 8 人か 10 人しかなかったようだが、私が第 1 期生で受けたときは 20 余名だった。でもその人たちを活用するところがない。やっただけではだめだという話をした。こういったものに出てくださいという、取った喜びを活用しないと何にもならない。できる人はもっとあるかもしれない。
- 委 員 自分の家族が学校教育の現場に関わっている人の答えじゃないと、読み取れない。「わからない・無回答」が非常に多かったということ。
- 事務局 そこを除くと 78.3%なので、理解した上で答えた人は、8 割近くは今は平等だと思っていると思う。「わからない」を除いた%が全体より下がっている項目と上がっている項目がある。学校の場合は上がっている。分からない人が多い。分かっている人には平等だと感じ取られていると思う。
- 会 長 もう少し地域で出る人、自治区の会長会議などに、部長から言ってもらって。
- 事務局 ただ、防災でも、今は県も、男女共同参画の担当者と危機管理部門の担当者が一緒に研修を受けてくださいという形に変わってきているので、女性の視点を避難所づくりなどに入れるようにという体制になっているので、防災士が増えて活躍の場が増えれば、もっと地域に出ていけるようになる。ただ、防災士の情報を自治会に流すことが難しいようだ。うちの自治会に防災士がいるかどうかの把握、情報が、個人情報で出せないというところがネックだとは聞いた。

■会 長 個人情報はずごくネックになっている。独居老人、障がい者を避難させるのに教えてくださいと言っても、個人情報だから名前は出せないと言われる。田舎では把握できるが、大井町、長島町辺りでそれを言われると、民生委員はどう動いていか分からないと言われる。

■事務局 自己申告していただければいいのだが。

■会 長 全部情報を出せというわけではないが、必要なところには出さないといけない。

■委 員 個人情報は一切出したくないが、困ったときには真っ先に助けに来いと本気で思っている人が現実にある。

看護師の資格を持っている人や保育士の免許がある人が地域にいろいろあるが、知らないし、生かされていない。そういう人的資源をどう生かせるかは大きいことだと思う。

(2) 今年度のプラン推進に向けた取り組みについて（意見交換） 資料⑤⑥⑦

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■会 長 えなえーるはいつもいろいろな行事をやっていてすごいと思う。恵那市社会福祉協議会も相談をいつもやっていて、高齢者もその家族もすごく喜んでいる。

今年度のプラン推進に向けた取り組み、または全体的に意見があれば。他の委員が言われた、これ自体がおかしいという、「優遇差」についても。次のプランでは優遇差というところをもう少し考えるといい。「差がありますか」とか。

えなえーるの隣にできた恵那未来キャンパスも、繋いだ利用もできるのか。

■事務局 キッチンと扉でつながっているので、座学は未来キャンパス側の部屋でプロジェクターも使ってできる。併せてキッチンで作業したりもできる。

■会 長 まだどれだけ利用しているか分からないかもしれないが、高校生、中学生、一般の人が見られるが、利用状況はどうか。

■事務局 学校帰りの高校生が勉強に使っている。夏休み中も日中は高校生で結構埋まっている。高校生向けに発信することも可能。

■委 員 涼しいから。「バローの2階で勉強してくる」とわざわざ行く。

■会 長 涼しいし静かだしきれい。本当にいいところだ。

■委 員 恵那峡の映画のコンテストがあり、大勢の参加者がいたと思うが、そういうのに同じようなことで、何か簡単にできるレシピを開発して作っていく親子が出るとか。今恵那南高校の生徒がプリンか何かを作っている。あれは全員女の子か。

■会 長 男子も入っている。

■委 員 そういうものをコンテストでやって増やしていくとか、親子で何か作った

り。男も今は料理するので。そういう企画をすると参加者が増えて、男女一緒にやれる。それと、情報を流すこと。いい取り組みをしている人がたくさんいる。例えば広報えなに載せるとか。男女参画に関わることで何か PR していく、市民に知らせていくことが大事だと思う。

■会 長 常に出ているのはえなえーると S D G s。ああいう 1 枠をもらって。

■委 員 今年、夏休みの子ども市民講座で、私は三郷で藍染を行ったが、今年はあまり人が集まらなかった。集まった 6 人は全部男子だった。今まで女子が圧倒的に多くて 10 数人いれば 10 人ぐらいは女子、男子は 4、5 人だった。公民館で企画している講座が、かわいいものを作るとか、女子がやってみたいことが今年は多かったようで、女子がそちらへ行行って、男子が参加したいものが少なかったのも、結果としてこうなったのかと言われ、気になった。ハンカチの藍染を三郷コミュニティセンターでやった際、ボランティアで来てくれたのも男子だった。全部男子という珍しい講座だった。

■会 長 ランドセルの色が決まらないように、いろいろなことをやりたい人が多いのかもしれない。

■委 員 「あれっ」と思った。

■会 長 それが中年以上の年の人の思うことだ。私も、男子で紫色のランドセルの子を見ると「何で？」と思う。

■委 員 今日から岐阜県パートナーシップの制度が始まった。1 ページ目に、どの市はこういったサービスがあるというのがあるが、高山市がすごく多く、恵那市があまり多くないのは理由があるのか。

■事務局 岐阜県からこの話が来たのが今年度に入ってからで、県担当者は年度内にできるといいぐらいだったのが、実際は 9 月に開始で、市町村側の精査が追い付いていないのが大きいと思う。市町村ごとの温度差がある。何でもかんでも出したところもあるが、恵那市は要綱があってそこを変えてからしか出せないのも止めたところがあるということが、話を聞く中ではある。今後増やすところもある。ただ、性別にこだわらない生活保護などでも、生計が 1 つだと確認できれば、婚姻していてももしくはオーケーを出しているところもある。パートナーシップ制度という視点ではこの状態。県の掘り出し方の基準があいまいで差が出た。他にもこれができるというのがあれば、挙げてもらえれば、この宣誓制度に乗れる。

■委 員 関市の名前がなかった。

■事務局 東濃では恵那が一番たくさんある。

■委 員 えなえーるで、cotocoto ミーティング。子育て中の皆さんの声がよく伝わっている。3 回は同じメンバーか。

■事務局 同じメンバー。初対面だとなかなか話せないということもあったので。テーマを少し変えてやった。今年度もどこかでやりたい。男性の座談会もほしいとか、お父さん同士のつながりがほしいというのものもある。最近の父親は一緒に育児がしたいという感覚が増えている。ひよっこひろばや子ども向けの親子のイベントをやると父と母と両方くるパターンが多い。先日ひよっこ測定という乳児の体重身長を測る日に、父が1人で連れてきていた。奥さんは今家の掃除をしているので僕が来たということで、何の抵抗もなく来ていた。日頃から参加しているのだと感じた。そういう会でつながりができるといいと思う。

■委員 児童センターを見ても、若い父親が子どもを連れて来るケースが少し前より増えている。男女共同参画になっている。

■委員 よくやっている。これを広げないといけない。この場だけでなく。情報提供をして、これだけ恵那市は考えているということをもっとアピールしてもいい。大げさでもいい。せっかく年に何度か会合をしているので。

■会長 知らない人の方が多い。

■委員 図書館のサポーターをしていてイベントがあるが、家族で若いカップルが来るところを見ると、父と母が同等で、うらやましく見ている。父親が普通に子どもを連れてきて母親が家で掃除をしているというのが普通。家では奥さんと同じ立場で子育てするようにだんだんなってきた。いい傾向だと思う。今日のアンケートを見ても、そういうアンケートに参加する世代が私たちの世代だと、環境も考えもそうだったのは仕方ないことで、これから変わっていくことを期待する。

■会長 全体的な意見を頂いた。学童をみていたり、三郷あいの会は生まれてから死ぬまでのことをやっているの、その中で学童にも関係しているが、夏休みになると小学校の教室が狭くて公民館に子ども達が来る。私はそこでいきいき教室をやっているが、午後6時半頃まで学童はやっているが、子ども達のお迎えはほとんど父親が来る。または祖父母が迎えにくる。子育ては女性や年寄りがやるものという感覚はだんだん薄れてきている。みんなで子どもを育てることがある。項目1の「男性は仕事、女性は家庭という考えについて」、第1期を作るときにそういう考え方がまだすごく多く、平等というのが少なかったが、今は85.6%がそうではないとしている。「介護の役割も分かち合うのがよいと考える割合」が85.6%もある。少子高齢化時代で、家族の形態が大分変わってきているので、みんなで協力しないとやっていけないということが浸透している。この15年ぐらいで変わってきた。

事務局は大変だろうが、来年は学校に関する事のアンケートの年齢的な数値を出してくればもう少し身近に感じられる数値が出ると思う。意識づくり、環境づくり、安心して暮らせるまちづくりについても、年代に合った考え方によるアンケートの集

計をしてほしい。

5. その他

■事務局 今後について。本日頂いた意見は市役所関係各課で共有し、取り組みを進めていく。今後のこの委員会は、状況を見ながら会長と相談し必要に応じて開催する。

■会 長 委員から出たPRの仕方についても事務局で考えてほしい。貴重な資料なのでこのまま次回やるのではなく何か考えていただきたい。

■委 員 広報えなにそういうコーナーを作るといい。よく防災士の話や地域の話が載っている。そういうコーナーでいろいろな人を紹介するといい。

6. 閉会

■事務局（進行） 閉会の挨拶を副会長から。

■副会長 実のある内容の話だった。今朝運転しながら空を見たら秋の雲だった。朝も涼しい。確実に秋が来る。しばらく暑いが体に気を付けてほしい。

〔 閉 会 〕